

徳島大学における防災リーダー養成の取組み

徳島大学環境防災研究センター 正会員 ○中野 晋
 徳島大学環境防災研究センター 正会員 黒崎ひろみ
 徳島大学環境防災研究センター 正会員 魁生知佐子
 徳島大学環境防災研究センター長 フェロー 岡部健士
 ニタコンサルタント株式会社 正会員 藤田真人

1. はじめに

南海地震など大規模災害の発生が予測される中、自然災害やその対策に正しい知識と技能を持ち、いざという時に速やかに対応できる人材を育成することを目指して、徳島大学防災リーダー養成講座をスタートさせた。この講座は全学共通教育の教養科目に位置づけられるもので、「災害を知る」（前期2単位）、「災害に備える」（後期2単位）の2科目で構成される。この2科目の修得者を「徳島大学防災リーダー」として環境防災研究センターが認定する。また、この養成講座のカリキュラムにより、平成19年3月に国立大学では初めて（特）日本防災士機構の認定研修機関となっており、「徳島大学防災リーダー」と認定されることにより、防災士の受験資格が得られる。

2. カリキュラムの内容

「防災士」養成カリキュラムでは「いのちを自分で守る（自助）」について12時間、「地域で活動する（共助・公助）」について9時間、「災害発生のしくみを学ぶ」について9時間、「災害に係わる情報を知る（情

表1 徳島大学防災リーダー養成講座の内容（平成19年度）

災害を知る（前期）			災害に備える（後期）		
	開講日	内容		開講日	内容
1	4月13日	防災士とは	1	10月5日	公助・共助・自助
2	4月20日	風水害	②	10月12日	自主防災活動の進め方
3	4月27日	土砂災害・火山災害	3	10月19日	学校防災教育
4	5月11日	強風・竜巻災害	4	10月26日	企業防災
5	5月18日	地震災害	5	11月2日	災害時要援護者対策
⑥	5月25日	火災	⑥	11月9日	災害予警報
⑦	6月1日	阪神大震災	⑦	11月16日	緊急地震速報
8	6月8日	災害時の行動	⑧	11月30日	土砂危険情報
⑨	6月15日	災害ボランティア	⑨	12月7日	洪水予報
10	6月22日	都市災害の特徴	⑩	12月14日	避難所運営
11	6月29日	ライフライン被害	⑪	12月21日	災害と保険
⑫	7月6日	災害報道	12	1月11日	DIG実習
⑬	7月13日	災害医療	13	1月16日	クロスロード演習
14	7月20日	被災者の心理ケア	14	1月25日	防災GIS
15	7月27日	津波・高潮災害	⑮	2月1日	建物の耐震化
○	集中講義	普通救命講習	16	2月8日	防災リーダー修了式
○数字は学外講師が担当				2月15日	日本防災士試験

報)」について8時間、「最新の災害状況や防災技術を知る（防災）」について9時間、「いのちを守る（救急）」3時間、合計50時間の講義や実習が必要とされる。本講座でも標準カリキュラム構成に従い、表1のようなカリキュラムを作成した。前期科目の担当教員は大学院ソシオテクノサイエンス研究部（工学部）教員5名、総合科学部教員3名、自治体職員2名、団体職員2名、後期科目は大学院ソシオテクノサイエンス研究部（工学部）教員3名、国及び自治体職員4名、団体職員1名、その他専門家2名が担当した。

3. 主な成果

徳島県では本センターの支援を受けて平成17年と18年に徳島県地域防災推進員養成講座を開催し、計70名程度の防災リーダーの養成を行ってきたが、予算的な制約で平成19年度以降は県独自で養成講座を開催することは困難となりつつあった。本学でこの講座が開設されるのを受け、徳島県から社会人の受講生受入要請があり、年間30名に限定して各市町村から推薦を受けた一般の方を受け入れることとなった。

前期の「災害を知る」では120名の定員（最大収容人数150名）で学生88名、県推薦社会人30名が、後期の「災害に備える」では170名定員（最大収容人数176名）で学生138名、県推薦社会人29名が履修した。ほぼ毎回、講義担当者が交代するオムニバス方式の授業となるので、毎回出題される小テストまたはレポートにより総合評価が行われた結果、前期は学生63名、社会人24名が合格、後期は学生104名、社会人21名が合格した。その内、両科目を履修し、防災リーダーとして認定されたのは学生21名、社会人58名の合計79名である。写真1と2は「災害を知る」「災害に備える」の授業風景、写真3は2008年2月8日に行われた徳島大学防災リーダー認定証授与式の様子である。なお、2月15日に実施された防災士試験には防災リーダー認定者の内、62名が受験、その全員が合格している。

1年間に防災リーダーを100名、防災士を70名養成することを目標にしていたが、一般社会人の合格者も含めても目標の約80%に留まっている。これは初年度ということもあり、前期の受講生定員を20名程度、収容定員より少なく設定したことが原因の1つであるが、早い時期に防災に関心を持たせて、継続的学習への意欲を起こさせるよう講義内容を充実させることが特に重要である。

4. おわりに

初年度の授業内容は座学が中心で、実習中心の授業は普通救命講習を除くと2週だけであった。防災実践力養成を行うためには実習作業を行うことも重要であり、平成20年度では前後期併せて4週に増やす予定である。また、防災力を有する人材育成のためにはフォローアップが必要であり、防災リーダー会の設置やフォローアップ講座の開催など、学内で育った防災士の能力アップが平成20年度の大きな課題である。

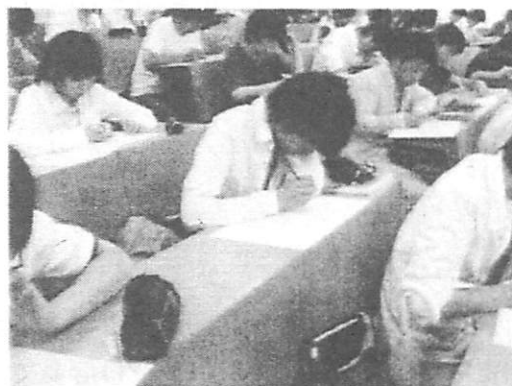


写真1 「災害を知る・災害時の行動」、小テストに取り組む受講生（2007年6月8日）



写真2 「災害に備える・DIG実習」、学生と社会人が共同して災害図上訓練を実習（2008年1月25日）



写真3 徳島大学防災リーダー認定証を授与される社会人修了生（2008年2月9日付徳島新聞）